

2019年3月18日

三鍋敏郎

三十三間山を調べていると、小浜山の会の新コースが紹介されていたので、問い合わせるとコースマップと詳細が送られてきた。今回はそれを迎えることにした。

三十三間山の駐車場からすぐに小川に掛かる橋があるので、その橋を渡ると獣避けの門扉がある。林道沿いにすこし進むと枝尾根に乗るのでそれを南東に向かう。自然林の歩きやすい尾根でなんの障害もない。アセビやヒサカキ、カシなどが多く見られる。

やがて、本日の歩行目的の主尾根に乗ると、進行方向が北東に変わる。早速後ろで「マンサクがある」と声を上げる。振り返ると錦糸卵の花をつけたマンサクが陽光にかがやいている。尾根は微妙に左右に折れ曲がるので枝尾根に入り込まないよう慎重な読図が要る。途中地蔵さんが2体並んで登場するのだがここが注意点である。ここのお地蔵さんはこの尾根が昔の街道だったという証明で、複雑で判りにくい尾根分岐の目印に安置されたものだろうと考える。今までの尾根から東に一旦下り、コルを経て三十三間山の主尾根から張り出した枝尾根に取り付くことになるが、地形が複雑なので注意がいる。狭い尾根を抜けて標高370mの尾根に乗ると、北西方向に三方五湖の一部が見える。

標高406mを超え、シデ林帯を抜けて上がった標高550mの広場での昼食。まだ芽吹きが無いので展望が効いて気持ちの良い風景が広がっている。

昼食後、広いブナ林帯を歩いて行くとブナの巨木が数本倒れて道を塞いでいる。それを跨いで進むと前方に壁のように塞がる主尾根の斜面が見えて来た。

急斜面には新雪が積り滑りやすい。直登に挑戦したが、斜面が厳しく滑落の恐れがあるので、小浜山の会のルートを辿り、左の尾根までトラバースをする。取り付いた尾根は美しく見事なブナ林が広がっていた。厳しい斜面に苦勞しながら主尾根に乗る。主尾根に乗ると北の方向に白山連峰が白く輝いて見える。東には大日尾根や三重嶽の雄姿が見える。

尾根の積雪は10cm前後で支障無く歩くことが出来る。アップダウンを繰り返して、三十三間山に到着する。記念写真を撮って早々に下山コースに突入。西に下り方向が南西に変わると突然眼の前に若狭の広大な風景のパノラマ。青色の微妙な色彩のグラデーションが夢のような風景を醸し出し、丹波の山々、青葉山や久須夜ヶ岳、若狭湾に浮かぶ島々の点在。去りがたい風景に区切りをつけ風神に向かう。急斜面を下り杉の植林帯から谷に出て、風神の滝を見て倉見の駐車場に出た。

★メンバー 三鍋 他5名      ★コース登山口 9:33～主尾根 9:50 発 53~406m 11:17~550m 11:50 発 12:14~尾根 13:15 発 22~山頂 14:25 発 30~下降分岐 14:58~登山口 16:35